

工作機械工業 収益状況集計

(2019年度 第3四半期)

会員企業のうち2019年2月末迄に2019年度第3四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業16社を集計。調査対象企業における専業比率は83.3%。なお、今期はIFRSに移行した企業1社を対象外とした一方、専業比率の上昇により調査対象に含めた1社を加え、前年度と同数の16社集計となっている。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要 (16社)

(単位：百万円・%)

	19年度	19年度	19年度	19年度	前年同期比	18年度
	I期	II期	III期	I~III期		I~III期
売上高	165,556	186,561	173,558	525,675	△ 15.7	623,589
売上総利益	50,186	53,973	48,691	152,850	△ 21.3	194,328
売上総利益率	30.3	28.9	28.1	29.1		31.2
営業利益	11,146	13,243	9,396	33,785	△ 49.1	66,417
営業利益率	6.7	7.1	5.4	6.4		10.7
経常利益	11,794	13,027	10,218	35,039	△ 48.5	68,002
経常利益率	7.1	7.0	5.9	6.7		10.9
当期利益	7,731	8,293	5,948	21,972	△ 53.6	47,335
当期利益率	4.7	4.4	3.4	4.2		7.6
総資産	1,012,394	997,532	997,697	997,697	△ 2.7	1,025,376
純資産	602,349	606,389	609,929	609,929	+ 3.8	587,490
自己資本比率	59.5	60.8	61.1	61.1		57.3
自己資本 当期純利益率 (ROE)	5.1	5.5	3.9	4.8		10.7

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧 (連結・I~III期計・前年同期比) (16社)

(単位:社)

	増 加	減 少	合 計
売上高	4	12	16
売上総利益	5	11	16
営業利益	5 (0)	11 (1)	16 (1)
経常利益	5 (0)	11 (1)	16 (1)
当期利益	6 (0)	10 (1)	16 (1)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2019年度通期見通しの概要

表3 【第3四半期時点】連結業績予想の概要（16社）

（単位：百万円・％）

	2019年度通期見通し			2018年度実績
	第2四半期時点	第3四半期時点	前年度比	金額、比率
売上高	721,558	713,158	△ 16.5	854,243
営業利益	50,054	44,794	△ 50.8	91,069
営業利益率	6.9	6.3		10.7
経常利益	51,395	46,170	△ 50.2	92,772
経常利益率	7.1	6.5		10.9
当期利益	34,045	28,465	△ 56.7	65,757
当期利益率	4.7	4.0		7.7

表4 【第3四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（15社）

通期 (対前年度比)	増収増益	2社 (増減なし)	増収減益	1社 (増減なし)
		減収増益	1社 (増減なし)	減収減益

※前年度又は今年度に決算月を変更した1社は増減記載なし

※（ ）内は、第2四半期時点からの増減社数

◎第2四半期時点からの修正理由

【経常利益のみ上方修正 …1社】

- 生産性向上に向けた生産現場の体質改善や原価低減諸施策が奏功したことにより、各利益水準が前回予想を上回る見通し。売上高は、ほぼ計画通りとなる見通し。

【売上高を上方修正、経常利益を下方修正 …1社】

- 売上高は工作機械事業及びその他事業を中心に第3四半期の実績が前回発表予想に対して順調に進捗し、通期では予想をやや上回る見込み。一方、利益面については、工場稼働率の低下による売上原価率の悪化や減価償却費等の固定費増加により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は予想を下回る見込み。

【売上高、経常利益とも下方修正 …3社】

- 工作機械関連事業において、中国向けの売上のずれ込みが見込まれること、また、輸送機器関連事業の状況も厳しく、下方修正。
- 第3四半期の受注が低調となり、第4四半期に出荷を見込める受注残が減少したため通期の売上高の予想を引き下げた。売上が減少することと、繰延税金資産の回収可能性が低いと判断した結果、利益が減少する見通しのため、連結業績予想を修正。
- 通期の連結業績は、特機事業および精密部品事業は前回予想並みに推移する見通しであるものの、第3四半期まで概ね想定を上回る水準で推移していた工作機械事業の販売が第4四半期では中国市場向けで減少、また欧州市場向けの販売も引き続き低調に推移すると見込まれることから、売上、利益ともに前回予想を下回る見通し。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (16社)

(単位:百万円・%)

	19年度		18年度 I～Ⅲ期
	I～Ⅲ期	前年同期比	
売上高	438,097	△ 17.1	528,434
営業利益	32,305	△ 48.6	62,791
営業利益率	7.4		11.9
専業比率	83.3		84.7

表6 【参考】工作機械事業セグメントの概要 (24社)

(単位:百万円・%)

	19年度		18年度 I～Ⅲ期
	I～Ⅲ期	前年同期比	
売上高	682,662	△ 12.5	779,779
営業利益	48,568	△ 40.5	81,622
営業利益率	7.1		10.5
専業比率	23.8		27.3

※表5の対象企業16社に加え、セグメント情報を公表している
専業比率30%以下の会員企業8社を加えた24社で集計

【調査対象会員企業 (順不同)】

(専業比率30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
 浜井産業株式会社
 豊和工業株式会社
 小池酸素工業株式会社
 株式会社牧野フライス製作所
 株式会社岡本工作機械製作所
 OKK株式会社
 オークマ株式会社
 株式会社桜井製作所
 西部電機株式会社
 株式会社ソディック
 スター精密株式会社
 株式会社太陽工機
 高松機械工業株式会社
 株式会社滝澤鉄工所
 株式会社和井田製作所

(専業比率30%以下の集計対象企業)

株式会社F U J I
 株式会社不二越
 株式会社ジェイテクト
 倉敷機械株式会社 (倉敷紡績株式会社)
 黒田精工株式会社
 株式会社三井ハイテック
 株式会社オーエム製作所 (ダイワボウホールディングス)
 東芝機械株式会社